

都営地下鉄大江戸線延伸の早期事業着手に関する要望書(写)

時下、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

東京が将来にわたって持続的に発展し日本全体を牽引し続けるためには、活発な都市活動を支える鉄道網のさらなる充実が不可欠です。大江戸線の延伸（光が丘～大泉学園町）は、首都圏の広域交通ネットワークの強化・充実に資するとともに、練馬区の北西部に残された、23区でも数少ない鉄道空白地域を解消する重要なプロジェクトです。

延伸実現に向けて、昭和63年に延伸地域住民・区議会・区により大江戸線延伸促進期成同盟を設立し、長年に渡り促進活動に取り組んできました。平成29年には大江戸線延伸推進会議を設立し、区内の経済団体等とともに促進活動に取り組んでいます。大江戸線の延伸は、区全域の多くの住民が切望するもので、機運は大いに高まっています。

本路線は、平成28年の国の交通政策審議会の答申において、事業化に向けて検討などを進めるべき路線の1つに位置付けられ、都の『『未来の東京』戦略』では、調整が整った路線から順次事業に着手していくとした上で大江戸線の延伸については「関係者と事業化について協議・調整を進める」と位置付けられています。

導入空間となる補助230号線の整備については、延伸区間全体の用地取得率がすでに8割を超えており、延伸を見据えたまちづくりも来年度大泉町二丁目地区の地区計画を決定することにより、沿道におけるすべての地区で地区計画の決定、用途地域の変更が完了します。これに加えて、大泉学園町の新駅予定地周辺では、再開発等の検討を進めています。また、区の延伸推進基金も既に50億円を積み立てるなど、取組の熟度は極めて高いと考えています。

大江戸線延伸と同様に国の交通政策審議会答申において、事業化に向けて進めるべきとされた路線である有楽町線や南北線の延伸は、鉄道事業の許可を得て事業が着実に進められています。大江戸線の延伸については、交通局の令和4

年度予算において「地下鉄 12 号線の延伸に関する調査」と明示した経費が初めて計上されました。しかしながら、大江戸線の延伸は事業化に向けた見通しが示されていません。延伸の効果や必要性、地域の思い、取組の熟度等を踏まえ、1 日も早い事業着手の判断をお願い申し上げ、以下の取組を早急に行うよう要望します。

記

- 1 課題となっている駅やトンネルの構造、延伸に必要な車両の留置施設などの施設計画を取りまとめ、その実現に向け関連する道路計画との調整等具体的な検討を進めること。
- 2 補助 230 号線沿道におけるまちづくりや新型コロナウイルス感染症の影響を踏まえた将来需要を取りまとめ、課題解決に向けて区と連携して具体的な検討を進めること。
- 3 前記 1、2 の検討結果を踏まえ、環境影響評価など事業化に向けた調査・手続に早急に着手すること。
- 4 都市計画道路補助 230 号線の未買収用地の取得についても積極的に進め、大江戸線延伸に必要な導入空間を早期に確保すること。また、用地を取得できた区間については、整備を早期に行い交通開放を行うこと。
- 5 延伸に向けて都が進める鉄道施設や関連する道路計画の検討状況などを練馬区へ適宜、情報提供すること。

令和 4 年 8 月 29 日

東京都知事 小池百合子様

大江戸線延伸推進会議

大江戸線延伸促進期成同盟	会長（練馬区長）	前川	燿男
一般社団法人 練馬産業連合会	会長	井口	薫
東京商工会議所練馬支部	会長	高内	恒行
練馬区商店街連合会	会長	小川	善昭
公益社団法人 練馬東法人会	会長	秋山	勉
公益社団法人 練馬西法人会	会長	高橋	利充
東京あおば農業協同組合	代表理事組合長	久保	秀一
練馬区町会連合会	会長	加藤	政春
光が丘地区連合協議会	会長	高橋	司郎